

平成20年度

「みやざき小中学校学力・意識調査」

分析結果

調査の概要

宮崎県教育委員会

## 調査の概要

### 1 実施の概要

調査目的	県内の小・中学校における学力の実態を把握・分析し、その結果をもとに、児童生徒の学力向上に総合的に取り組む。
実施日	平成20年4月22日(火)・23日(水)
調査実施校	市町村立小学校 267校(小学校5校 対象児童なし) 市町村立中学校 137校 県立五ヶ瀬中等教育学校 県立宮崎西高等学校附属中学校 宮崎大学教育文化学部附属小学校・中学校 (小学校 約11680人、中学校 約11880人)
対象学年	小学校第5学年
	中学校第2学年
調査実施 対象教科等	< 学力調査 > 小学校第5学年 国語、社会、算数、理科 中学校第2学年 国語、社会、数学、理科、英語 学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、それぞれの教科の観点に沿った内容で調査を実施する。
	< 意識調査 > 小学校第5学年、中学校第2学年 学習に対する意欲や取組の状況、学習習慣や学習を支える基礎となる体験の有無、読書の状況等について、アンケート方式で調査を実施し、学力調査結果とのクロス分析を行う。

## 2 学力調査の結果

### 小学校第5学年の平均到達度及び達成率

(%)

		全県	A層	B層	C層	D層
平均到達度	国語	56.7	82.2	61.8	38.4	16.0
	社会	73.1	84.1	65.5	40.6	15.9
	算数	65.5	84.5	64.6	39.8	15.6
	理科	64.1	82.2	62.7	40.9	18.1
達成率	国語	18.2	100.0	0.0	0.0	0.0
	社会	74.0	100.0	52.5	0.0	0.0
	算数	32.7	100.0	0.0	0.0	0.0
	理科	18.7	74.4	0.0	0.0	0.0

### 中学校第2学年の平均到達度及び達成率

(%)

		全県	A層	B層	C層	D層
平均到達度	国語	58.2	82.5	62.4	39.9	17.3
	社会	57.6	82.4	61.2	38.0	15.5
	数学	52.5	82.5	60.6	37.4	15.5
	理科	56.5	81.0	60.9	38.0	15.9
	英語	54.1	83.5	62.6	38.4	17.9
達成率	国語	23.5	100.0	0.0	0.0	0.0
	社会	46.9	100.0	51.9	0.0	0.0
	数学	24.0	100.0	18.7	0.0	0.0
	理科	26.2	100.0	13.6	0.0	0.0
	英語	38.6	100.0	55.3	0.0	0.0

到達度は、児童生徒が正答、準正答であった問題数の割合を表し、平均到達度はその平均となる。

A層・B層・C層・D層とは、各教科の最高到達度と最低到達度を均等に4段階の層に分け、上位から順にA～Dとしたものであり、A層～D層の平均到達度は、各層の児童生徒の到達度を平均したものである。

達成率は、各教科における観点及び領域ごとに設定された目標値に到達した人数の割合を、全県及びA層～D層ごとに示したものである。

A層～D層については、意識調査と学力の関連を見るとき有効である。

### 3 意識調査の結果

#### 小学校第5学年の肯定的回答の割合

意識調査

(%)

	全県	A層	B層	C層	D層
授業に関すること	86.1	90.2	85.9	78.7	71.9
学習に関すること	68.4	69.4	68.5	65.9	64.0
生活に関すること	66.7	69.0	66.3	63.3	60.2
自分に関すること	85.0	89.0	84.8	77.7	70.2

#### 中学校第2学年の肯定的回答の割合

意識調査

(%)

	全県	A層	B層	C層	D層
授業に関すること	77.6	83.4	78.9	74.5	64.9
学習に関すること	61.6	64.0	62.5	59.8	55.8
生活に関すること	58.9	61.7	59.8	57.0	52.3
自分に関すること	79.8	84.9	81.3	76.9	66.2

A層・B層・C層・D層とは、全教科(小学校4教科、中学校5教科)の最高到達度と最低到達度を均等に4段階の層に分け、上位から順にA～Dとしたものであり、各層の児童生徒が肯定的に回答(望ましい回答)した人数の割合を表わしている。

## 4 分析の概要

### 学力に関する分析

**小学校の国語、理科、中学校の国語、数学、理科に課題が見られる。**

小学校の国語、理科、中学校の国語、数学、理科は、目標値に到達した児童生徒の割合(=達成率)が低い。これらの教科については、特に児童生徒のつまずきを各学校において十分分析し、今後の指導に生かすよう心がけていくことが大切である。

**小学校の全教科、中学校の国語、社会、理科のD層に課題が見られる。**

小学校の全教科、中学校の国語、社会、理科は、それぞれの教科の平均到達度と、D層の平均到達度との差が大きい。これらの教科については、特にD層の児童生徒の結果を精査し、指導の工夫を行うことが大切である。

### 意識に関する分析

**「学習」及び「生活」に関する項目に課題が見られる。**

小・中学校ともに、肯定的回答の割合の低い項目は、昨年同様「学習」及び「生活」に関する項目である。家庭学習の仕方や学校以外での過ごし方など、学校外での学習や生活に対して、家庭と協力して指導を行うことが大切である。

**中学校の「生活」に関する項目に課題が見られる。**

「授業」「学習」「生活」「自分」に関する各項目を小・中学校で比較すると、全体として中学校の方が、肯定的回答の割合が低く、特に中学校「生活」に関する項目が低くなっている。家庭での生活に対しても意識を向け、適切な指導を行うことが大切である。

### 学力と意識の関係分析

**「自分」に関する項目と学力に関連性が見られる。**

意識調査において、A層とD層の肯定的な回答に大きな差が見られるということは、学力との関連性が深いと考えられる。小・中学校ともに「自分」に関する項目において、A層とD層の差が大きくなっている。このことから、特にD層の児童生徒に対して、自分の将来への夢や希望をもたせたり、自己肯定感をもたせたりする指導を行うことが大切である。

**「授業」に関する項目と学力に関連性が見られる。**

小・中学校ともに「授業」に関する項目に、A層とD層の肯定的な回答に大きな差が見られる。このことから、わかる授業の工夫や授業形態の工夫などに、積極的に取り組むことが大切である。